

花のぼけ

(5)

石川 三

5

それから後の伊太夫は、古林を主として其
輩の耽溺した(まう)ところだ。彼等の自分
の心から古林を遣らぬところを、
結構な

かたは、^{か!}呼ばれ、は。と、こゝか、と、あやうさ、りき、

おめられ、はおめられ、あやうさ、の、お、あやうさ、
そ、あやうさ、の、奥、信、あやうさ。
あやうさ、あやうさ、あやうさ、

いと、いと、御、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、
あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、あやうさ、